

1. 西富岡・向畑(にしとみおか・むこうばた)遺跡

遺跡は伊勢原駅より北北西へ約2km、県道63号の西富岡交差点南東側一帯にあり、西は渋田川、東は富岡丘陵に画された伊勢原台地北部の一角に立地しています。標高は45m前後。渋田川に面した南西向きの台地上約5万㎡の調査をしており、旧石器時代の石器はL1H～BB2層を中心として石器製作址・礫群・炭化物集中・炭化材が出土しています。中心となるのはL1H層中で、14区では槍先形尖頭器の製作址・礫群・炭化物集中・炭化材が3,000㎡ほどの範囲に広がっている状況を調査することができました。石材は凝灰岩や安山岩・黒曜石などが中心です。最も遺物が集中するL1H層下部の炭化物による年代測定結果は約21,000年前の値が出ています。



西富岡・向畑遺跡 L1H 層石器出土状況



西富岡・向畑遺跡出土の槍先形尖頭器
* 神奈川県教育委員会所蔵

2. 上粕屋・秋山(かみかすや・あきやま)遺跡

上粕屋・秋山遺跡は、伊勢原市上粕屋字秋山付近に広がる台地の上に位置します。調査地は、その秋山台地の縁辺に位置し、下には和田内の低地が広がっています。標高は約59mです。

石器群は、北側の台地の縁で、BB1層で発見されました。発見された石器は、黒曜石の碎片が大半を占めます。現地で石器製作を行い、その残滓が発見されたと推測されます。数は少ないですが、ナイフ形石器も含まれます。また、この石器群には、礫群も含まれています。



上粕屋・秋山遺跡 BB1 層石器出土状況

3. 上粕屋・子易(かみかすや・こやす)遺跡

遺跡は、大山に水源をもつ鈴川の左岸にあり、標高約100m前後の台地上に立地します。L1H層とBB1層、BB2層の3つの層位から石器が発見されています。

L1H層下部から槍先形尖頭器石器群が出土しました。出土石器点数は約9,500点を数えます。ガラス質黒色安山岩や凝灰岩が主な石材として使われています。尖頭器やその未製品、剥片、碎片が出土しており、尖頭器を集中的に製作した場所と考えられます。

BB1層上部からは、ナイフ形石器群が出土しました。大きく3つの範囲で発見されており、各範囲で1～3つの集中部を形成しています。石器は、ナイフ形石器以外に、槍先形尖頭器も出土しています。石材は黒曜石を多用しています。BB2層では黒曜石製剥片1点が発見されました。

石器群とともに出土した炭化物を試料として放射性炭素¹⁴C年代測定を行った結果、L1H層で約21,000年前、BB1層で約23,000年前の年代が得られました。



上粕屋・子易遺跡 L1H 層石器出土状況

※本文中のBB0層やBB1層とは、相模川左岸の相模野台地の基本層序に準じています。ローム層の断面を観察すると、縞状に黄褐色土と褐色土が互層に堆積しています。上部から、L1S→BB0→L1H→BB1→L2→BB2→L3→BB3→L4→BB4層と順番に呼称されています。Lはロームの略で比較的明るい黄褐色土層、BBはブラックバンド(黒色帯)の意味で暗褐色土層です。

石器は台地の端に出土することが多いのかな？



4. 子易・中川原(こやす・なかがわら)遺跡

伊勢原市子易地区に所在し、丹沢山地南東麓および鈴川右岸段丘上に立地します。遺跡の標高は、108～130m。平成25年度調査および平成31年度調査で旧石器時代の遺構・遺物が検出されました。両調査区ともに鈴川右岸の段丘面に位置しています。平成25年度は、BB0層の径0.3m程度の範囲内に小規模な礫群(6点)、L2層上部で径1m程度の範囲内に礫群(50点以上)が発見されました。礫群の礫の多くは熱を受けていました。L2層上部の礫群周辺から5点の石器(スクレイパー・剥片)が出土しました。石器石材は黒曜石が多くみられました。礫群検出面の標高は約104～106mです。

平成31年度の調査では、L1H層下部からBB1層上部にかけての径10m程度の範囲内に礫群(30点以上)および石器集中部(ナイフ形石器・剥片等400点以上)が発見されました。石器石材はほぼ黒曜石で占められます。礫群検出面の標高は約109mを測ります。



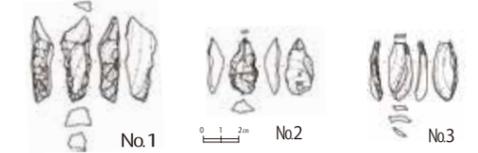
子易・中川原遺跡
L1H～BB1層石器出土状況

5. 上粕屋・和田内(かみかすや・わだうち)遺跡 第4次調査9区

上粕屋・和田内遺跡は上粕屋扇状地の北縁に立地します。遺跡は渋田川支流の谷に面し、谷の対岸には旧石器時代の文化層が何枚も重なって発見された西富岡・長竹遺跡が所在します。旧石器が発見されたのは、丘陵の端から低地に突き出た馬の背状の台地で、標高は50～55mです。台地の尾根筋から南側の緩い斜面に礫群や石器製作の跡が大きく広がり、全部でおよそ1,200点ほどの遺物が発見されています。石器は凝灰岩や黒曜石製のナイフ形石器(No.1)が中心で、少量の敲石、磨石、角錐状石器(No.2)などが伴っています。また凝灰岩製の国府型ナイフ形石器(No.3)も目を引きます。石器が発見された地層はBB2層で、土の堆積が厚い伊勢原市にあっては、深くそして古い地層となり、注目される発見となりました。



上粕屋・和田内遺跡 BB2 層石器出土状況



上粕屋・和田内遺跡 BB2 層出土石器実測図

6. 粟窪・林(あわくぼ・はやし)遺跡

粟窪・林遺跡は、伊勢原市粟窪に所在し、小田急小田原線伊勢原駅の北方約2kmの歌川と渋田川にはさまれた標高35～37mほどの台地上に立地します。

旧石器時代の遺物は、中世以降の土地利用によって上層が削平された南側の緩斜面地で発見されました。石器はいずれも剥片で、石材は黒曜石・チャート・凝灰岩製でした。遺物が出土した土層は、火山灰分析を実施した結果、約28,000～30,000年前に降灰した始良丹沢火山灰(AT層)を含む層よりも下層(BB4層)であることが確認されました。これは後期旧石器時代前半期に相当するもので、現在のところ伊勢原市最古の遺物であり、このあたりの歴史を知る上で大変貴重な遺跡です。



粟窪・林遺跡 BB4 層石器出土状況

彼らはまだ土器をもっていないんだね



※始良丹沢火山灰(AT)は、鹿児島湾(錦江湾)と桜島を囲む始良カルデラの大噴火によって日本列島各地に降り積もりました。